

## 議案第2号

### 令和4年度 事業報告

我が国の人口は、今後ますます少子高齢化社会が進展していくことが見込まれ、元気な高齢世代に対し自主的な社会参加を促し、支えられる側ではなく社会の支え手として活躍することが強く求められています。そのため、高齢者に就業機会を提供するシルバー人材センターの役割は、「地域の担い手、働き手の確保」のため欠かせない存在となっています。

しかし、新型コロナ感染が高止まり傾向で続きシルバーで予定した事業も大きく制限され、さらには、令和5年10月に施行が予定されるインボイス制度への対応が必要となるなど、シルバー事業を取り巻く環境は今後も厳しい状況が懸念されます。

こうした状況に対応し、安定した事業運営を行うための指針として、新たな「第4期中期5ヵ年計画」を策定しました。会員・役員・職員が一丸となり、目標達成に向けた取り組みを行っていく必要があります。

本年度の具体的な事業実績ですが、年度末の会員数は612人で前年比1.9%（12人）の減となり、昨年度若干回復した会員数が体調等を理由とする退会者の増により再び減少する結果となりました。契約金額は3億9,924万円余で前年比6.0%（2,276万円）の増加となり、派遣就業を含めた事業実績は4億1,318万円余で前年比6.1%（2,360万円）の増加となりました。しかし、就労単価の見直しを行ったことを考慮するとほぼ昨年並みの事業実績となり、新型コロナ発生前の事業実績には戻らない状況です。

契約額を部門別にみると、公共部門は7.1%（643万円）の増、民間部門の事業所等においては5.4%（1,164万円）の増、一般家庭部門においても6.8%（552万円）の増となり、いずれも増加に転じる結果となりました。

請負委任による就業を基本としつつ、適正就業の推進のため「適正就業ガイドライン」に基づき「労働者派遣事業」と「有料職業紹介事業」にそれぞれ取り組み、令和4年度において、労働者派遣事業で11社での就業が可能となりました。

安全対策では「安全は全てに優先する」を基本に事故ゼロを目指し、「作業前ミーティング」の励行を重点に推進してきました。しかし、本年度は12件の事故が発生し、あわや重篤事故に繋がりがかねない事故も発生しています。安全講習会への出席を義務づけ安全意識の向上を図るなど、今後も事故防止に向けた積極的な取り組みが必要となります。

